

## 大通公園を望む窓辺から

### やはり

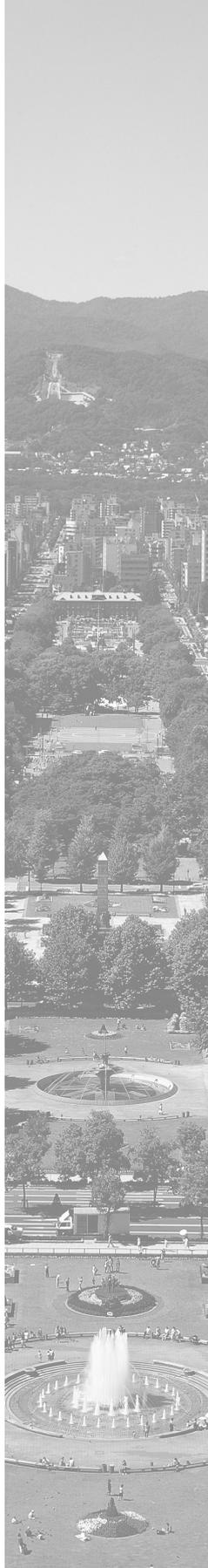
副会長 藤原 秀俊

しばらく振りに本棚の書類の整理をしました。古い雑誌・書籍・文献の整理をしていたところ、ふと目に留まったのが「道州制について」でした。かなり前に勉強した記憶がありますが、最近は全く話を聞かなくなったので、これはもう終わったこととして、「道州制」に関する書類や本を思い切って捨てることにしました。本棚もスッキリし、気持ちもスッキリしました。

9月15日付けの北海道新聞朝刊に、「道州制 どこへ？」と言う記事が載っていました。それには『本年4月の知事選公約に盛り込まれず、新しい総合計画の素案からもひっそりと消えた』『背景には政府・自民党の後ろ向きな姿勢がある。(中略)抵抗が強く、導入に向けた道州制基本法案の国会提出を見送り続けている』と掲載されていました。また『省庁が移譲のデメリットを指摘し、調整が難しい』と内閣府道州制特区担当室の話も載っていました。

省庁が既得権を簡単に手放すことはありません。課税等の権限を移譲する、あるいは地方の分権を進めるなどは、中央省庁が自ら実行することはあり得ないことと思われます。そのようなことができているならば、もっと日本は良い国になっていたことでしょう。「集めた税金は自分達で管理します。配分は自分たちの権限で決めます、その代わり分配時には注文を付けます」と言うのが、財務省の考えであろうと思います。

財務省の上記の考えが端的に示されたのが、平成27年度地域医療介護総合確保基金(医療分)の前期の配分と思われます。基金の対象は①地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設または設備に関する事業②居宅等における医療の提供に関する事業③医療従事者の確保に関する事業ですが、今回は①に100%、②は33.7%、③は50.9%で、①～③区分間の調整は不可となっており、財務省の胸の内が見えます。



### 夏休みに思う

理事 沖 一郎

ハワイの友人の家で夏休みをとるようになってから20年ほどがたちます。毎年毎年同じ所で全く同じように約1ヵ月暮らします。よくハワイで何をしているのか?と聞かれますがいつも「何もしてません」と答えます。たまには読書をしたり買い物をしたりはしますが、ほとんどぼーっとして過ごしています。その中でもハワイでの最高の楽しみは食事です。和食、韓国料理、中国料理、ベトナム料理、フィリピン料理、メキシコ料理、ローカル料理、西洋料理などさまざまです。

このように料理が多彩のわけはハワイの歴史と深い関係があるようです。

まず太平洋に浮かぶハワイ諸島に大勢の白人たちが押し寄せました。クジラの油を照明用に利用するためです。油をとるために大量のクジラを捕まえていました。食用ではなくあくまでも照明用でした。捕鯨の次はサトウキビのプランテーションでした。サトウキビ畑で働く労働者として日本、中国、フィリピン、ポルトガルなどから大量の移民がやってきました。一番は日本からでした。その後は朝鮮戦争にからんで韓国から大量の移民が入り、その後はベトナム戦争後にベトナムからも入ってきました。

この複雑な人種の文化、食文化が交り合っただけでハワイ独特な食事が出来上がったようです。

とくに私が大好きなものは現代日本には見かけなくなった和食の変形したローカル料理です。たとえば昔のハンバーグ、ポークカツレツ、学校給食のようなカレー、日本で見かけなくなったビーフシチュウなどがあります。味付けも大雑把ですが懐かしい昔を思い出す味です。また西洋とアジアが融合したパシフィックリムなどの素敵な料理も日系人を中心として発展してきました。

この原稿は今ハワイで書いています。ハワイに来てから3週間経ちました。今の体重は4キロ増です。後1週間で元の体重に戻すため反省しながら必死にダイエットに励んでいます。

毎年のことですがこの点が私にとって一番の問題です。